

平成31年度 新宿区立西新宿中学校 進路指導

<ul style="list-style-type: none"> ○教育基本法 ○学校教育法 ○学習指導要領 ○東京都教育委員会教育目標 ○新宿区教育委員会教育目標 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の教育目標 人間尊重の精神を基盤とし、国際的視野に立ち、真理と平和を求め、人間性豊かな人を育成する。 <li style="margin-left: 20px;">ア 自ら鍛え心身ともに健康な人 <li style="margin-left: 20px;">イ 自ら考え進んで実行する人 <li style="margin-left: 20px;">ウ 自ら学び続ける人 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・家庭・地域の実態 ○地域の期待や願い ○保護者の期待や願い ○生徒・家庭・地域社会の実態 ○時代や社会の要請
---	---	--

○進路指導の目標（『学習指導要領』文部科学省 平成20年3月）
 社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視するとともに、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持って、主体的に自己の進路を選択決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を育成する。自分自身を見つめ、自分と社会とのかかわりを考え、将来、様々な生き方や進路の選択可能性があることを理解するとともに、自らの意思と責任で自己の生き方、進路を選択することができるよう適切な指導・援助を行う。また、進路指導が生徒の勤労観・職業観を育てるキャリア教育の一環として重要な役割を果たすものであること、学ぶ意義の実感にもつながることなどを踏まえて指導を行う。

<p>○本校における進路指導の重点（平成31年度 本校教育課程 第1表） 目指す生徒像を、「自ら健康を維持し、進んで心身を鍛える生徒（健康）」「節度と思いやりの心もち、進んで考え行動する生徒（礼節）」「目標と向上心もち、学び続ける生徒（創造）」とし、「鍛え」「考え」「学ぶ」教育活動を展開する。</p>	<p>○生徒の実態（学校評価など） 明るく素直な生徒が多い。与えられたことはよくできるが、自ら考え判断して、主体的に進路を開拓するまでにはいたっていない。また、将来への目標意識や職業観・勤労観が漠然としている生徒もいる。</p>
---	--

○具体的な重点項目

- ① 自己を見つめ、自ら啓発し、常に自己実現を図ろうとする態度の育成。（意思決定能力）
- ② 人間としての生き方を考えさせ、適切な進路を選択できる能力や態度の育成。（将来設計能力）
- ③ キャリア教育の視点を踏まえた、職業や進路に関わる社会体験活動（職業調べや職場体験）を通じた、望ましい勤労観・職業観の育成。（情報活用能力）
- ④ 様々な人とコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む態度の育成。（人間関係形成能力）

○各学年における具体的な確かな学力の育成の重点（学年経営案）

1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学ぶ喜び、わかる楽しさが得られるよう、授業を工夫し、生徒の実態に応じたきめ細かい指導を行う。 ・ 生活記録ノートを活用して、基本的な学習習慣を身につけさせる。→チャイム着席・授業準備・聞く態度・発言・提出物 ・ 家庭学習の充実を図る。→復習を中心として。
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の授業を大切に、自ら進んで学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 → チャイム着席・準備・提出物・聞く態度・発言 ・ 家庭学習を定着させる。→宿題・復習を中心に ・ 計画的な学習習慣を身につけさせる。→他の活動との関連を考えて自分のペースをつくる。
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の苦手な生徒への手立てとして、放課後学習、定期考査前の補習の呼びかけを積極的に行い、各々の生徒に合った学習をさせて自尊感情を高め、意欲を高める。 ・ 家庭学習の実績を可視化させ、学習時間、質、量を見つめさせる。 ・ 班活動を通じた教え合い、学び合い、助け合いの学習を、質、量ともに、より一層充実させる。
E 組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての教科等において言語環境を整備し、生徒の言語活動の充実及び、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・ 教科学習、作業学習、生活単元学習、日常生活の指導を四つの柱とし、十分な授業時数の確保を図る。そのため事前に指導計画をしっかりと立てる。また、生徒に興味・関心をもって意欲的・継続的に努力させる中で、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。

○各教科における具体的な確かな学力の育成の重点

国語	相互評価等を通して、他者の意見を尊重し、自分の視野を広げようとする態度を育てる。	美術	自分の表現方法を創意工夫させ、自分らしいものの見方をもたせ、伝える力を育成する。
社会	歴史上の様々な人々の人生を学ぶことにより、将来の自分の生き方を考える糧とする。	保健体育	相談活動に取り組むことによって、コミュニケーション能力を高め、自他の課題を発見する力をはぐくむ。
数学	いまの自分を見つめ、次の目標に向かって努力できるようにする。また、粘り強く問題解決に取り組む姿勢を養う。	技術・家庭	現代社会で活用されている技術の学習を通して、さまざまな産業についての知識を広げ、将来に活かす力を育てる。
理科	過去や現在の科学者の成果とその経緯に触れ、夢を実現するために努力する態度を育てる。	英語	異文化に触れることを通じて国際的視野をもち、自己の将来について考える姿勢を育てる。
音楽	音楽を通して自分の考えを表現することで、自分を見つめて社会とのかかわりを考えさせる。		